

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年4月2日

事業所名 ルカズハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		宿題、公文学習を集中できるように配慮。	令和3年2月1日新装オープンで、訓練室と学習専用の部屋がある。
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		廊下、階段に滑り止めを施している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			定期的にサービス担当者会議などに参加できるようにし、業務改善に取り組める機会を持っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			年に1~2回ご意見などを頂いている。管理者から保護者への連絡を通じてその内容を職員で共有している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		常時、当社のホームページで閲覧できます。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		将来的に、第三者評価を試みることを視野に入れている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			社内・社外の研修に参加している。また、社内研修は2カ月に1度の割合。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		セルフプランの方に計画相談を動めている。	相談支援事業所とも連携している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		講師陣と職員で連携している。	英会話教室、造形教室、公文学習など行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			各教室はすべてプロの講師陣なので、内容は適宜工夫してもらい、毎月の行事イベントや遠足、さらにはクッキングも取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			滞在時間に合わせて個々の課題を設定し取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			状況に応じて公文学習は個別に、英会話教室・造形教室は集団活動で計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>			朝礼の時、子供の受け入れ前にミーティング形式で行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		支援経過記録を作成している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			必ず、6か月に1回。状況に応じて適宜行う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	<input type="radio"/>			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者と児童指導員の中から、その子供のキーパーソンの職員が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		下校時間、学校行事などの情報交換を積極的に行っている。	地域の学校に通学している子供が多いこともあり、担任、副担任の先生と密に連携が取れている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		再アセスメントには協力していただく。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			次の生活に向け、早めに情報共有させて頂いてます。さらに、相談支援事業所とも連携して積極的に情報を提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			コロナ禍になるまでは交流があった。時期をみて今後も検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		リモート参加に対応できるよう、設備等調整中である。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			細かなところまで情報を共有するよう意識している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			必要に応じながら資料や動画を使用して支援している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時など、その都度ご説明させて頂いる。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談事業所とも連携し合っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			コロナ禍で昨年は中止となったが、世情をみて親子参加の遠足等で交流の機会を作っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		緊急対応マニュアルに基づいている。	法人内部での対策委員会を必要に応じて開催。迅速に対応し、保護者、市役所などへの報告も厳守している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月1回のルカズハウス新聞を発行。Facebookにも毎月1回の投稿を行う。
	35	個人情報に十分注意している	○			契約時から契約終了後も一貫して注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域の祭りにも参加。	餅つきやバス遠足の時に交流。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			コロナウイルスに関する情報など、市役所からの情報も含めて共有している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	消防訓練時に。		毎年3月・9月で行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	法人全体での研修。		外部、内部ともに行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			高齢者施設部門では身体拘束廃止委員会があるが、放課後等デイサービス内部では現在対象となる児童はいないが、必要時はマニュアルに応じて適切に対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			一覧表を作成しキッチンに掲示している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			会議時、職員で情報を共有している。